



富士見市立みずほ台小学校 学校だより

たりほのいね

3月

【月の生活目標】1年間のまとめをしよう・・・今の学年のみがき残しはないかふりかえり、仕上げみがきを

【目指す児童像】(=学校教育目標)考える子・やさしい子・元気な子 1977(昭和52)年開校 48年目

【目指す学校像】家庭・地域と生きる力を育み、笑顔あふれる学校

児童数473名 / 19クラス



【6年生】静と動。最後までハードルを上げてきた6年生。あっぱれの一言。【3年生】進学の不安な気持ちも元気な歌で吹き飛ばしてくれました。



【5年生】一つ下だからわかる6年生のありがたさ。赤、黄、オレンジ...と学年帽を替えながら、思い出をフロア一杯使って寸劇に。

【4年生】思い出のキーワードを「あったーま、おしり♪」でクイズに。写真の「み・・・ど」のヒントは、右の来年度の予定にあります。



【1年生】まだまだ6年生と遊びたい!「ポポポーズ」で6年生と対決。【2年生】6年生全員の名前を連呼。呼ばれた子から似顔絵よりも笑顔に。

【まとめ】どの学年も個性を生かして練習に練習を重ね、絆を育ててきた様々な行事の締めくりにふさわしい、素晴らしい会となりました。

ありがとう6年生! みんなでつくる六送会

新年度の年間予定表は近日配布いたします

4,5月の主な予定

4月	4 金	新6年生準備登校
	8 火	始業式、入学式
	11 金	給食開始
	15 火	懇談会(高)
	16 水	懇談会(中・けやき)
	17 木	6年全国学テ(学力学習状況調査)
5月	18 金	懇談会(低)
	25 金	一年生を迎える会
	30 水	6年見学テ(学力学習状況調査)
	1 木	5年県学テ
	8 木	4年県学テ
	9 金	5校時授業公開、引取訓練
31 土	運動会	

令和7年度 主な年間行事

- ・みずほハッピーワールド 9月26日(金)午前
- ・陸上大会(5,6年) 10月 8日(水)午後
- ・音楽会 11月 8日(土)午前
- ・時間走記録会 1月29日(木)午前
- ・5年林間学校 7月22日(火)~23日(水)
- 説明会 6月27日(金)
- ・6年修学旅行 11月27日(木)~28日(金)
- 説明会 10月15日(水)

正門の戸締りにご協力いただきありがとうございます。防犯のため、昇降口につきましても、お迎え等で来校された際にはお願いいたします。



深まる学び

この時期の校外学習は、社会科や理科でこの一年間で学んだ物事を体験的に深めることができます。保護者の皆さまには、お弁当のご準備や見送りなどいつもありがとうございます。4年生は、寄居町にある川の博物館や川越市の蔵造りの街並みを見学してきました。

5年生は、羽生市にある中島紺屋(こうや)で冷たい水で藍染体験をしたり、「地下神殿」として有名な春日部市の外郭放水路に行ってきました。

学校内では、今年もエバリーさんをお招きし、ライブ会場に行ったときの手拍子の仕方など、全身で音楽を楽しむ方法を教えてくださいました。

何でも動画で調べられたりする時代ですが、臨場感や匂いが記憶に深く刻まれています。

表彰コーナー

◆埼玉県読書感想文コンクール	5年	〇〇〇〇	
◆埼玉県読書初め中央展	5年	〇〇〇〇	6年 〇〇〇〇
◆埼玉県児童生徒美術展	5年	〇〇〇〇	6年 〇〇〇〇
◆日本郵便手紙作文コンクール	4年	〇〇〇〇	6年 〇〇〇〇
◆家庭の日ポスターコンクール	最優秀賞	3年 〇〇〇〇	優秀賞 6年 〇〇〇〇

車窓から

4年生の校外学習に随行した時のこと。関越の所沢インターに向かっているバスの中にて。
 「あ、〇愛病院だ」「ここで注射したことある!」
 「あ、靴〇通センターだ」「ここで上履き買った!」
 「あ、〇ーズデンキだ!」「うち、ここでテレビ買ったよ!」
 「あ、自転車屋だ」「こないだここで新しいの買ってもらった!」
 「あ、〇クドナルドだ」「ここ来たことある、おいしいよね!」...

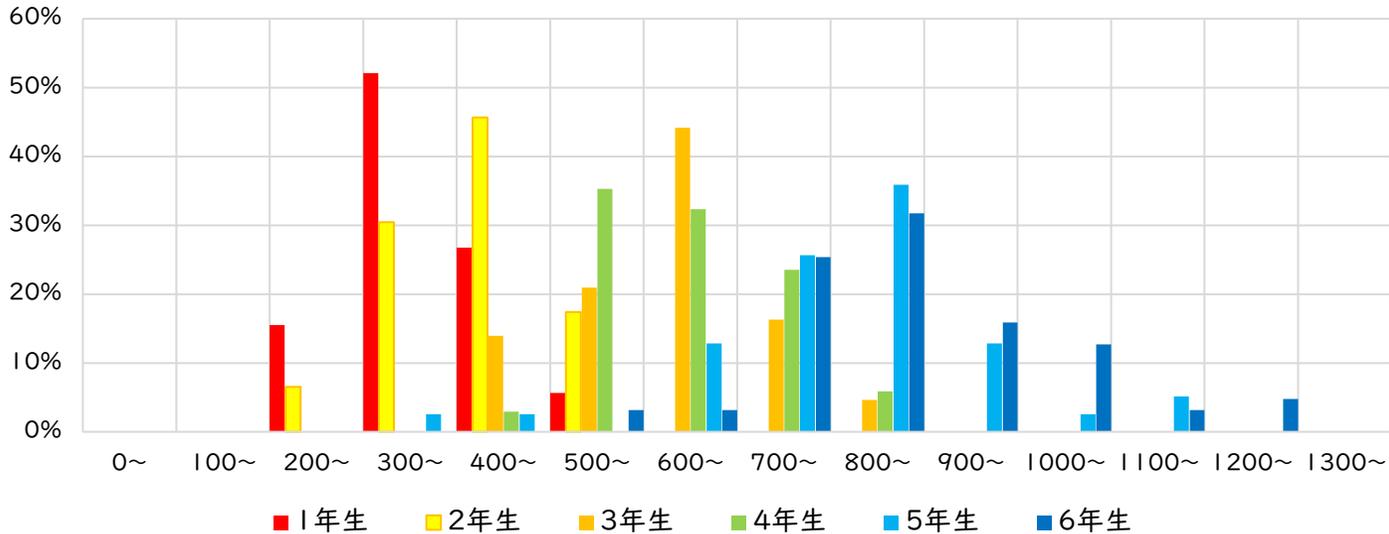
コロナ禍もあって、ここ数年はバスが動き出すとすぐDVD鑑賞でしたが、久々にバスレクが復活。レクの開始までの間、興奮気味の会話が飛びかうのを小学生らしくいいなあと思いつながら聞いていました。
 何度も観た「〇イストリー4」もよいですが、富士山や男体山が見えたり、人間川や荒川を渡ったり、線路や電車が見えたりと、目的地に着くまでの間にも学びのチャンスがあるのが、校外学習のよさでもあることを思い出させてくれました。

みずほ台小地区合同防災訓練



3月2日(日)午前中、本校にて5町会合同の防災訓練が行われました。体育館の中ではAEDの練習をしたり、外では揺れを再現する「起震車」に乗ったり、煙が充満した部屋から脱出する体験や、消火器を使って火が出ているところに当てる訓練など、町会ごとに分かれて訓練を行いました。市長や議長、消防署長もお見えになり、活動を見守っていただきました。

グラフ① じかんいっぱいはしたきより (m)



自分を信じ、勇気を持って挑戦しよう ~時間走の記録から~

1月末に実施した持久走記録会では、多くの方に応援にお越しいただき、ありがとうございました。その後、子どもたちに自己ベストをデータ入力してもらいました。

グラフ①は、各学年の設定時間内にどれだけ走れたか、100mごとにまとめた学年内の人数をパーセントで表しています。低学年は3分間走ですが、1年生では300m台（1周半から2周）だった子が一番多く、2年生になると400m台（2周から2周半）まで走れる子が増えています。

中学年では4分間走、高学年は5分間走となります。6年生では5分間で6周回り切り、7周目（1,200m以上）に入れる子も出てきます。

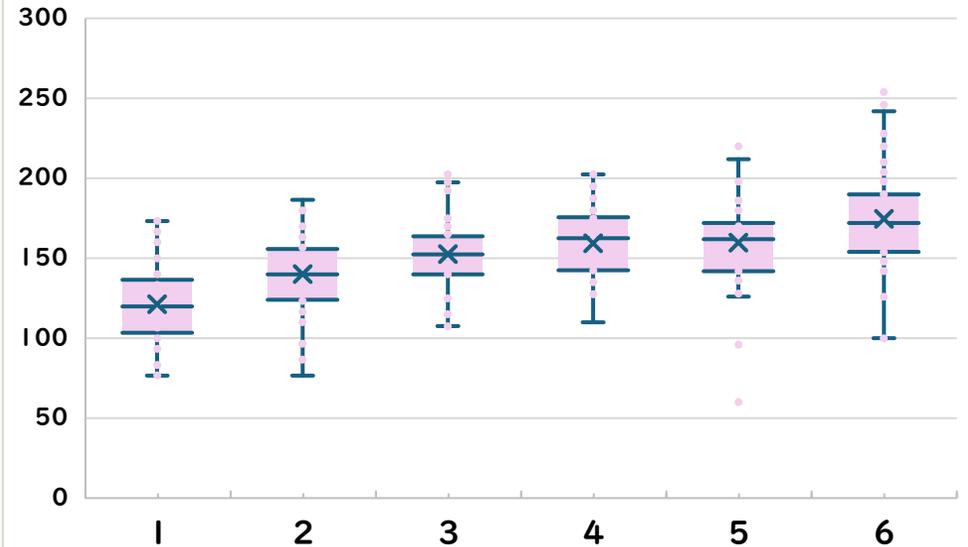
一方、1分間に走った距離（走るペース）を比べてみたのがグラフ②です。このグラフから2つのことが分かります。

まず、1年から2年、5年から6年のようように、走る時間が同じ学年では1年で大きく伸びています。練習の段階から昨年の自分の記録を意識しやすいのでしょう。

一方、2年から3年、4年から5年のように、1分間長くなった時はそれほど速くありません。特に、5分間走になる5年生では、4年生との差がほとんど見られません。

6年生で7周目の壁に挑戦できるようになるためにも、5年生で勇気をもってペースを上げてみるのが大切なのが分かります。

グラフ② 1ぶんかんにはしたきより (m) …ふんそく



情報(データ)に強くなろう

上のグラフ②は、「箱ひげ図」といって中学校で登場します。ピンクの箱の部分には、その学年が100人だったとしたときの、26番から75番の人が入っています。箱の中の横線は50番目で、×は平均値です。3年生のように、箱がつぶれていると団子状態で走っていることや、4年生のように、全体に対して箱の部分が大きいほど、周りを気にせずそれぞれが自分のペースで走っている様子などが浮かび上がってきます。

今年の大学入試から新科目「情報」が登場しました。多くのデータをどう扱うかという問題では、上の箱ひげ図も登場していました。

小さなうちから身近な物事を数理的に見る力をSTEM教育は大切にしています。たまたまですが、以前紹介したデジタル数字を表示するプログラミングも出題されていました。



がんばった時間走

(児童の作文)

あつという間に終わってしまっただけで、時間走はとても楽しかったです。体力はないけれど、走ることは好きだからです。それに、走り終わった後は、いつもすぐくやり切ったという感じになるからです。

時間走から学んだことは、練習からしっかり取り組んだ方がいいということでした。

5分間で4周走ることができました。途中で止まらないで、こんなに走れたのは初めてです。走っているとき、おばあちゃん が応援してくれているのが見えました。

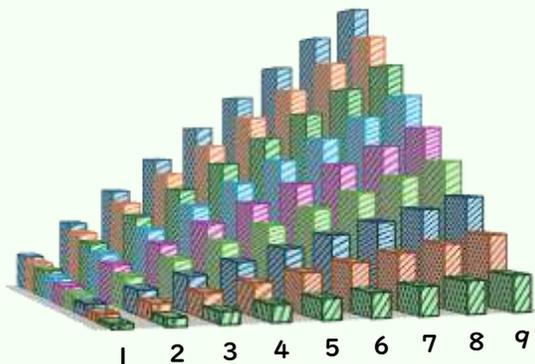
とてもうれしかったです。中学校に行ったら、もっと走ってみたいです。

本校では2年にわたり「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」に取り組んでまいりました。文の組み立てや表現手法など、国語科を中心に文章力の向上を目指してきましたが、「自分の考えをもつ」ためにはまず、読書や体験を通じて、「何か伝えたい」という気持ちをもたせることが大切です。

自らの成長を実感しながら、日頃言えない祖母への感謝の気持ちを伝え、新生活への決意をつづった作文を見せてもらった時、「時間走」が「小学校」にも見え、思わず胸が熱くなりました。どんな取組も、ご家庭のご理解、ご協力なしには完走できません。常にお子さまに寄り添い続けてくださったご家族に、心からお礼と感謝を申し上げます。

九九チャレンジ 2年生

教室で暗唱に合格した子どもたちが、今年も校長室に検定を受けに来ています。「7×9」や「6×4」など、間違えやすい9枚のカードを用意。教室ではスラスラ言えたのに、校長室にきて緊張のあまり実力を発揮できず、目にいっぱい涙をためて帰っていった子も、1週間後に再訪して見事合格していきました。かたや、大きな声で自信たっぷりに「ひちにじゅうし！」と言われると、つい自分が間違っていたのかなと、子どもと顔を見合わせてしまうなんてことも。



落語体験教室 3・6年



今年も桂文ぶんさんをお招きし、3年生と6年生で落語体験教室を行いました。落語はどのようにして生まれたのかや、「二つ目」「真打ち」などの用語の由来など、大人にも興味深い説明に続き、いもたろう(桃太郎)や花咲かじいさん、鶴の恩返しなどをモチーフにした小話で、会場を温めてくださいました。

お話を伺うと、最近の子どもたちは落語にありがちな、人の容姿や性格を小ばかにした話をして、以前のようにどっと笑わなくなったそうです。一人で見る動画とは違い、「ここで笑っているのかな」と友達顔をちらっと見て、躊躇している様子が散見されます。

伝統芸能である落語も、何かパフォーマンスをして人と楽しみを共有したいという点では、子どもたちの憧れであるユーチューバーと根っこの部分では同じなのではないか、という気もします。以前紹介した、落語に挑戦する小学生も、この機会にご覧になってみてください。